

稲穂北に輝く にぎりめし



令和3年度 穂北中学校だより

7月号

穂北中HP

校長

伊東 泰彦



米良美一さんが来校！

「米良美一さんの読み聞かせコンサート」



もののけ姫の熱唱（左）と色紙に喜ぶ米良さん（右）

十二月二十二日、米良美一さん（西都市民会館長）が穂北中に来られ、読み聞かせコンサートを行ってくださいました。

この企画は今年から始まった市民会館のイベントで、米良さんが市内の学校に来て、お話の読み聞かせと童謡の斉唱、更には

あの名曲「もののけ姫」をライブで歌ってくださいるなど、とても心に染み入るすばらしい時間となりました。

米良さんの、一人で何役もこなす話術や声色、歌声に魅了されながら、生徒たちも職員も食い入るように引き込まれ、あつという間に時間が過ぎていきました。

本校では、先の小中学校作品展の看板制作で、米良さんの新聞記事をもとにデザインを考えた経緯もあり、最初からとても親近感のある雰囲気のステージでした。

最後のお礼の場面では、女子生徒有志で制作したお礼の色紙【右図】を渡す

場面があり、米良さんもごく喜んでくださいました。

西都の誇る大先輩と現在の子ども達とがつながり心を通わせた、すばらしいイベントで、素敵なクリスマスプレゼントをいただきました。企画してくださった市民会館の方々に深く感謝いたします。



生徒作・お礼の色紙

修学旅行を無事実施！



コロナ禍で多くの制約がある中でしたが、生徒たちの最大の楽しみでもある修学旅行をようやく実施することができました。

これまで本校では、沖縄での平和学習をメインにした特色ある旅行を行ってきたのですが、感染の状



況やもしもの場合の送迎の利便性などを勘案し、旅程を九州内の熊本・長崎コースに変更しました。

一日目は天候にも恵まれ、最高のコンディションで出発しました。熊本市内に到着し、まずは昼食。その後、熊本城で震災学習と城内見学。



その後、熊本新港からフェリーで島原へ。途中、カモメと戯れる場面もありました。ホテルでは長崎の郷土料理を楽しみました。

二日目は長崎で平和学習と長崎観光。その後ハウステンボスへ移動。あいにくの雨でしたが生徒たちは



それぞれ思い思いに楽しんでくれたようです。夜は、イルミネーションとすき焼き、豪華なホテルに大満足でした。

翌日はホテル前で記念写真を撮って三井グリーンランドへ。ジェットコースターで涙目になっていた生徒もいたようですが、みんなとても楽しんでくれたようです。コロナ禍がようやく収まり、とても思い出深い修学旅行となりました。



「和牛繁殖農家への道のり」
三年 仲武勇雅

将来、父を超える牛飼いに
たい。品評会などでも、いつか父
と戦うのがとても楽しみだ。その
ために今は「努力」と「研究」で経験
を積み重ねることが大切と考えて、時間
があるときは、手伝いをして牛舎
に足を運び、和牛繁殖農家として、
父と母は、和牛繁殖農家として、
和牛の繁殖と仔牛の育成をしてい
る。品評会に二頭出品して、二頭
とも優等賞に輝いたことがある。
とても格好いいと思うし、尊敬し
ている。二頭出品して二頭とも入
賞することはなかなかないので、
努力すれば結果がついてくること
を、父は背中で見せてくれている。
今までは、牛の出産を見たり、出
荷を手伝ったりしたことはあつ
た。部活動が終わったことで時間
ができた分、今までできなかった
出産介助や、牛を引いたり牛の手
入れをしたりするにも、チャ
レンジしたいと思っていたので。
この夏休みは五つの挑戦をした。
一つ目は、「メモウ」という家
畜管理アプリを導入したことだ。
このアプリは、母牛や仔牛の名前、
月齢などを家族で共有できるアプ
リだ。夏休みの間に百頭以上の牛
を「メモウ」に登録した。一頭一
頭血統が違うので、それを入力す
るのは、かなり時間がかかった。
また、耳標番号といって、耳には
めいている名札の番号も、間違いの
ないように細心の注意を払って登
録した。「メモウ」を導入するこ
とで、セリに出す日やどんな病気
をしたかなどをどこからでもスマ
ホで確認できる。また、セリスマ
ホで確認の結果を入力すること
で、親牛の子どもの入札結果が一
目でわかる。それを今後ずっと記
録として残していけるという利点

もある。このアプリはインスタで
紹介されていたため、その人のイ
ンスタをフォローして、直接アプ
リの入れ方を聞いてみた。この夏
休みで、うちにいる牛のすべての
登録が終わった。自分のスマホに
入力したのが、データは共有でき
るので、父や母とも一緒にデータ
を見ることができ、母はまだ仕事
を始めたばかりで、牛の名前を覚
えきれない。このデータ
で牛の名前も分かるから、「便利
やね」と感動していた。
二つ目は、県内の家畜市場の相
場などを確認し、全てメモするこ
とだ。共励会といって、肉質を競
う大会がある。どの血統が枝肉が
取れているかなど、大会の結果を
調べて記録しておく。メモを取る
ことで、例年と比較したり他の地
域との比較ができた。自分の地
の家の牛が平均以上なのか、そう
でないのかを確認することもでき
る。このメモは、見やすく作らな
いと、見たときにすぐ使えない。
だから、線を引いて枠を作ったり、
グラフを作ったりなど、色々な工
夫を試しているところだ。
三つ目は、色々な種牛の共励会
の入札結果を調べることだ。今、
「耕富士」という種牛が病気になる
り、種が取れないため、とても困
っている。他の種牛の種をつけな
がら、病気が治ることを願ってい
る。今は、「耕富士」の種をつけ
た種牛の試験交配が始まっている
ところだ。種牛は「耕富士」だけ
でなく、何十種類とあるから、種
々な種牛の結果を調べて、どの種
を付ければ良い牛になるかを調べ
ている。それによって、値段も違っ
てくるからだ。母牛は、年を取る
と種付きが悪くなるといって、若
い牛と入れ

替えをしないといけない。種牛の
結果を調べることで、結果の出
ている種が付いている牛が分かれ
る。その牛を買うことで、良い牛が
生まれる可能性も高まる。県内の種
が付いた牛よりも、県外の種が
付いた牛の方が高値がつく場合も
ある。よい牛を育てるためには、農
家にとって欠かせないことだ。
自分は、県外受精師の免許を取
るつもりだ。西都の若者二十、三
十人で作っている「西都黒牛組」
では、県外受精師を頼んでいる人
は少ないから、自分が免許を取る
ことで、「西都黒牛組」に県外種
をつけることができる。免許を取
るためには大学に行く必要がある
ので、大学進学を目指しながら、
種牛の研究を進めていきたい。西
都黒牛組の仲間からは「おまえが
県外受精師の免許を取ったら、お
まえに頼むかいよ。」と言われた
と言われるたびに、恩返しをしたい
と思う。期待に応えたいと思う。
おそろいのTシャツを作ったりジ
ヤンパーを作ったりしている。有
名な先輩達の存在は、自分のあこ
がれであり、将来の目標でもある。
四つ目は、父と一緒にやった牛
のお産だ。牛の出産は、双子や逆
子の場合もある。命を失う危
険性と常に隣り合わせだ。生まれ
てくる命を守るため、母牛の負担
を少しでも減らすため、タイムミ
ングよく引張ることに意識を集中
させて手伝った。お産は、牛が
張ると同時に人間が引張らない
といけない。このタイミングが
とても難しい。父は、経験でそれが
分かる。自分もそうなりたと思
べし。まさに目指す姿だ。自分のレ
ベルを上げていき、父のようにな
りたい。本気で思う。(中略)

一つのミスで、それまでの努力が水の泡に
なるという怖さを毎回味わう。お産のとき
は、父の掛け声で生まれてくる仔牛の足に
わっかをつけて引張る。急いで引張ら
ないといけないときは、滑車を使って仔牛
の重さや感触、時間などは毎回違う。無事
に生まれてきても、安心というわけではな
い。母牛が面倒を見るか、仔牛が初乳をち
やんと飲むかなどを確認してからやっと一
安心だ。(中略)

仔牛は、季節によっても値段が違う。夏
は暑くて水ばかり飲むから太りにくく、値
段も少し落ちる。仔牛は雄雌平均で七十
程度で売れるが、出産の準備、えさ代、小
屋に敷く木のくず代など、費用もかさむ。
種つけ、出産までが、「農家の命」と言っ
ていい。命を守り、健康な牛を育てる責任
は重い。覚悟が必要だ。

五つ目は、ローダーの運転だ。牧草を運
んだり牧草をラップしたりする。個人が所
有する私有地の広場は道路交通法の適用外
なので、ローダーの運転も経験した。最近
のローダーはオートマなので、とても運転
しやすい。自分が牧草を運んだり、牧草の
ラップをしたりすれば、父が他の仕事に取
り組むことができ、自分がしたことが、実
感できて、素直に嬉しかった。

今年の夏休みは、色々な挑戦をすること
ができた。少しでも父や母や牛の力になれ
たと思うし夢に近づけたとも思う。色々な
経験をさせてくれた両親に感謝し、これか
ら、手伝いをたくさんやりたい。これか
らは、生きていくために何かを食べなけ
ればならない。仔牛を買ってくれた農家が
その牛を育て、やがて肉になる。その肉を
食べることで人は生きていける。牛飼いと
いう仕事は、人の命を助け、守る、欠かせ
ない仕事だと思っている。

今の最大の目標は、全国和牛能力共進会
に自分が育てた牛を出品することだ。学校
の勉強も大切だが、牛について勉強も、
日々努力を怠らさず、宮崎県を代表する牛飼
いになっていきたい。

穂波ゆる壽き田の里

西都の魅力考

先日、西都原の菜の花植え付けボランティアに参加する機会を得た。もう三十年ほど前になるが、俳優の仲代達也が井上陽水の曲に乗り♪青空の下、一面黄色の菜の花畑を歩く某ビールのCMを覚えている方もおられると思う。「息をするたび、青や黄色を吸い込みそうだ」

西都原の魅力が鮮烈に突き刺さす名コピーである。あのシーンが懐かしく、このボランティアに参加させていただいた▼橋田市長の挨拶にも「この菜の花の植え付けも今回で三十年を超えまして…」とあったが、令和の今なお続いているこの企画は、極めて秀逸な観光戦略の証である。郷土のボランティアに参加したい…と夏から言い続けていた本校の三年生たちと一緒に作業を開始。画面の中の「美しい一面の菜の花」は実に広大であったが、植え付ける面積もまた実に広大で、十二月とはいえ額に汗が浮き上がる作業となった。途中、200mを越える長さの畝に立ち向かうことになり、あまりの長さに心が折れそうになりながら、なんとか苗を植え終えた。いつの間にか生徒たちとそこを「穂北ロード」と名付け、開花したら絶対にここを見に来るぞ！という気持ちになった▼西都原は季節ごとに、菜の花、ヒマワリそしてコスモス…とその装いを変えながら、神話の里の魅力を演出してくれている。こうした西都の景観から「貴重なワンシーンを切り取った写真」を題材に、キャッチコピーをつけて郷土PRのポスターをつくるという取組をこの秋やってみた(先月号掲載)。現在、その代表作を街中のフリースペースや穂北支所などに展示していただいております。来年度からはこの取組を市内各学校に広げる構想もある。菜の花を始めとする西都の「貴重なワンシーン」をたくさん集めておき、来年の生徒作品に生かしたい…、そう感じた一日でした。(校長 伊東泰彦)



息をするたび
青や黄色を
吸い込みそうなの
春の西都原…



ボランティア
の様子

【1月・2月の主な行事】

1月

- 6日…始業式、五教科グランプリ(~7日)
- 12・13日…実力テスト(全学年)
- 14日…第3回英語検定試験
- 19日…新入生説明会
- 26~28日…私立高校入試

2月

- 2日…県立高校推薦入試
- 3日…合同学習キャリアみらいゼミ(1年)
- 16・17日…校内テスト
- 22日…参観日(2年生・立志のつどい)

ロードレース大会実施!

雨で1日順延としましたが、12月17日(金)にロードレース大会を実施しました。ロードレースには体力向上という目的もありますが、それ以上に気力が大事です。強風の中、全員が最後まで全力で走り切る姿はとても立派でした。また、長距離が苦手な後輩に、ゴールし終わった3年生の部活の先輩たちが駆けつけて、声をかけ励ましながら伴走する姿に、穂北中の新たな輝きを感じた大会でもありました。

【大会結果】



力走する生徒



1位でゴール

女子の部	
1位	長谷川 椿(3年)
2位	黒木 柚稀(1年)
3位	山崎 侑莉(2年)
4位	若松 里桜(1年)
5位	小山 凜乃(2年)
男子の部	
1位	橋口 慶到(1年)
2位	北村 心斗(2年)
3位	黒木 涼雅(1年)
4位	西田 壮汰(3年)
5位	岩下 凌太(2年)